

じゅくろう

第24回 浄覚寺子ども会夏のつどい

七月二十一日(日)、今年で二十四回目となる「浄覚寺子ども会夏のつどい」を開催しました。相当な暑さの中でしたが、無事に恒例の流しそうめんや制作、ゲームなどで楽しく過ごすことができました。

この度の紙面では、こども会の内容を紹介したいと思えます。まずはお寺の子供会ですから、開会式にはお勤めのご法話があります。みんなが阿弥陀さまに手を合わせる姿は、本当に尊く思えます。その次には紙芝居の読み聞かせをします。日本の昔話や伝説を扱うようにしています。そしてお昼ご飯に流しそうめんをし

ます。そうめんだけを流すのではなく、トマトやキュウリ、ウズラのゆで卵やカツプゼリーまで流します。それらとおにぎりをお腹いっぱいに入れていただきます。昼食後には集合写真を撮影し、制作とゲームです。今年の制作は手作りアイスクリーム。材料を混ぜて、氷と塩の中で五分振るだけで美味しいアイスクリームのできあがりです。そしてゲーム



大会。毎回ゲーム内容は違いますが、頭や体を使いながら楽しく遊びます。そしてまたお勤めをして、修了証を渡して閉会となります。最後にこの度のご法話で子どもたちに伝えたいことを掲載します。「いただきます」の挨拶には三つの有難うの意味があります。一つ目は作ってくれた人に有難う。二つ目は関わってくれた全ての人に有難う。そして三つ目は、いのちが有難うです。私たちが口にするものは全体的に美味しいものです。けれど、決して

て私に食べられるために生まれてきたのではありません。「あなたのいのちをいただきます」という感謝の思いがなければもったいないです。当たり前のようにいるのではなく、おかげさまで生かさせていただいていると気付かされるのが大切です。そして、目に見えてない人たちも含めて関わり合って生きています。自分一人の方で、自己中心的に物事を捉えてしまうと、そこには争いしか生まれません。お互いに敬い合ってほしいと伝えました。

第64号
(通算404号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・8月21日(水)
10時~11時半
- ・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

- ・8月27日(火)
19時~20時半
- ・参加費1000円

弥陀の名号となえつ

信心まことにうるひとは

憶念の心つねにして

仏恩報するおもいあり

親鸞聖人『浄土和讃』



御文章に聞く(第57回)

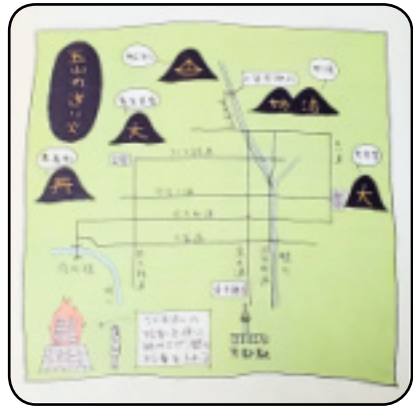
参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていきたいと思います。「他力本願」という言葉を深めていきますが、親鸞聖人の「他力」の受

在家尼女房章(五帖第三通) それ、在家の尼女房たらん身は。なにのようにもなく、一心一向に阿彌陀仏をふかしたのみまいらせて。後生たすけたまえと申さんひとをば、みなみな御たすけあるべしとおもいとりて。さらに、疑いのこころゆめゆめあるべからず、これすなわち。阿彌陀如来の御ちかひの。他力本願と申すなり、このうえには。な。お後生のたすからんこと。うれしきありがたさをおもわば、ただ南無阿彌陀仏南無阿彌陀仏と。となうべきものなり、

け取り方をご紹介したいと思ひます。親鸞聖人は「他力」というはたらきは、私たちが何か努力をするとか、しないとかいうような相対的なもので味わってはおられません。私が少しでも仏さまの方に向かうご縁があるならば、どんなにわずかなことであっても、その全ては阿彌陀仏のはたらきである。仰がれたのです。そして、全てが阿彌陀仏によつて準備されているのであれば、私の上に必要なものは、この本願力(阿彌陀仏のおはたらき)を疑いなく受け入れさせていただく「ご信心」のみといえます。称名念仏とは仏さま中心の生き方を象徴するものです。おかげさまの喜びと深い慚愧の中に、厳しい生活の中にも確かな依りどころを恵まれたうれしさがありません。すぐわけるための念仏ではなく、すぐわれている喜びがお念仏申す姿なのです。

仏教語辞典



お盆の行事の一つ。お盆に帰ってきた亡き人を送り届ける意味合いがあり、奈良時代に庶民に仏教が浸透した頃から始まった。山の送り火は京都の五山の送り火、川や海の送り火は灯籠流しがある。

送り火

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。息子が高校生になり、中学に続けて野球部に所属している。先日夏の大会の一回戦があり、観戦することができたが、試合は惜敗し、三年生は引退となった。試合後三年生と監督の挨拶を聞くことができた。監督は、勝って笑えるのは大阪では一チームだけ。それ以外の学校は全て負けて悔しく、後悔の中で引退していく。それでもいい。夢中になって取り組んだ二年半は決して無駄にはならない。その経験を生かし、今後の人生を歩んでほしいと伝えておられた。心に響く言葉であったし、何歳になっても夢中になれることを見つけたいと感じた瞬間だった。(釋法道)

9月

九月二十二日(祝) 十四時より
秋季彼岸会 法話 石崎博敏先生

行事案内
日時・八月十五日(木) 十四時より
行事・孟蘭盆会並びに 門信徒総追悼法要
法話・花岡静人先生(奈良)
場所・長原浄覚寺 となたもぜひお参りください
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

孟蘭盆会のご法要に併せて門信徒総追悼法要を厳修しております。ご法要の中で故人のご法名を拝読し、偲ばせていただきながら、この度のご法要をできるだけ身近なものに感じていただければと思っております。別紙申込書にて期日までにお届けいただきますようお願いいたします。